

TOPIC
1

コモンズ 1A・1B 教室を活用しよう！

全学共通教育棟 1階にあるガラス張りの部屋「コモンズ 1A・1B 教室」をご存じですか？これらの教室は、受講生どうしが活発にディスカッションする授業を想定して、新たに設計されたものです。

廊下側を全面ガラス張りにすることで、外を通る人にも、授業の熱気が伝わって刺激を与えることを意図しています。教室内には、電子黒板機能を備えたホワイトボードや可動式ホワイトボードを設置しています。また、1A・1B 教室を仕切る白い仕切り壁は、なんと全面ホワイトボードとして使えます。ぜひ活用してみてください。

今回のニュースレターでは、この教室に惚れこんで、いつも双方向型の授業を展開しているお二人の先生に、その魅力について語って頂きました。

今永典秀 [地域協学センター]

私は、地域協学センターが展開する「産業リーダーコース」の科目を担当しています。写真は「自己省察と将来のキャリア設計」(月3限・前後学期開講)の講義です。学生が教員に対する質問を考えるにあたって、仕切り壁の全面ホワイトボードを活用している様子です。この全面ホワイトボードのおかげで模造紙を準備する手間が省けます。

コモンズ教室では、学生たちを非常にアクティブな状態にまで高めて講義を進めることができます。机も自由に移動することができグループ学習にも最適です。例えば、「インターンシップの講義」(受講前の事前学習)においては、学生どうしによる共同作業やディスカッション等も実施しています。教室はガラス張りで、廊下からも講義の様子をご覧いただけますので(若干恥ずかしいですが…)よろしければ一度様子を覗きにきてください。

アンドリュー・ファリス [英語非常勤講師]

Andrew Pharis

I have enjoyed using the Commons A/B rooms for over a year now. Especially in conversation classes, it's nice to have the students already facing each other. It's more conducive to group work and it's a nice open space. There's also plenty of room for me to move around and interact with students one-on-one.

The smart-boards have been an interesting addition to my lessons as well. Their benefit to the students' learning experiences and my teaching is an ongoing journey as I continue to explore the boards and discover more and more uses for them. For now, being able to write, draw and otherwise interact with the content I bring to the classes and better illustrate points I want to make clear to the students is wonderfully beneficial.

私はすでに1年以上、コモンズ教室で授業をすることを enjoy しています。特に、英会話の授業では、学生どうしが向かい合って話をする事ができますし、グループワークを行ううえでも最適ですね。広々としたこの教室をあちこち移動することで、受講生一人一人の理解度を把握しながら授業を進めやすいのもこの教室の大きな特徴です。

また電子黒板は、授業の質を向上させてくれる画期的なツールです。私は今、この電子黒板のさまざまな機能や活用法を試行錯誤しているところで、新たな発見があるたびに、学生の学習経験も私の教授法もどんどんよい方向に向かっていきます。文字を書いたり、絵を描いたり、あらかじめ用意してきたファイルを画面に映し出すことで、学生に理解させたいことを効果的に説明できる点がとても優れています。



パーティションがホワイトボードに



今永先生の授業風景



電子黒板を使って授業するファリス先生

江馬 諭 [教学担当理事]

全学共通教育「英語教育」の方針



平成 29 年 7 月 25 日開催の教学委員会において、全学共通教育「英語教育」の方針が承認されました。すなわち、平成 30 年度よりすべての学部の学生を対象に 4 技能別カリキュラムがスタートします。これで岐阜大学は、授業内容について統一カリキュラムを持つことができました。PDCA サイクルで表現すれば、計画 (P) を立てることができましたので、今後は授業実践 (D) を行い、検証・チェック (C) から浮き彫りになった課題に対して改善策を検討して実行する (A) が可能になります。長い年月がかかりましたが、ようやくの第一歩です。

一方、各学部では多種多様な英語の授業が展開されており、英語の能力が進級の条件となっている学部や、大学院入学試験において卒業時の目標値が明確に示されている学部もあります。また、英語能力の内容については、コミュニケーション能力を重要視している学部や、英語表現上での専門的知識を重要視している学部もあります。このように卒業時に求められる英語能力は学部によって異なり多様です。英語能力の向上には学生自身の取り組みがかかせません。全学共通教育では各学部が目指す卒業時の目標を大切にしながらも、高等学校における英語教育とは少し異なるアプローチで学生の学習意欲を高めるとともに、効果的に学習する方法を育てていければと願っております。本学はようやく第一歩を歩み始めたところです。全学共通教育の英語教育に関係する先生方や事務職員の皆様のご協力を心よりお願い申し上げます。

デイビッド・バーカー [英語部会長]
David Barker

21 世紀型英語カリキュラムの構築 Building an English Program for the 21st Century



The key to developing an effective English program is to have clear goals that can be understood by teachers, students, administrators, and potential employers. These goals must be relevant and challenging, but they must also be achievable for every student. The introduction of the new English curriculum will allow us to set, implement, and then develop goals for Gifu University students that meet those criteria.

Most university students in Japan see English as just another subject that they have to study for tests. Our aim in the Gifu University English program will be to change the way our students think about English and introduce them to the study methods that they will need in order to develop skills that will allow them to communicate in the real world. The main advantage of having a coordinated curriculum is that it fosters a systematic approach to developing materials, methods, and tests. It also encourages the cooperation among teachers that is essential to professional development. With the support of the university management and administration staff, we at the Gifu University English Center look forward to developing and implementing an English program that fits the needs of Japanese students in the 21st century.

全共授業担当者意見交換会を開催しました

2017 年 3 月 2 日 (水) 13:00 ~ 15:00 コモンズ教室

教養教育推進部門では、毎年全学共通教育担当教員による意見交換会を開催しています。前年度までは、前半の部会別懇談をそれぞれ別の場所で行いましたが、今回は前後半とも全ての部会が、一堂に会しました。部会別懇談は、人文、社会、自然、複合領域、英語、第二外国語、スポーツ健康の各部会に分かれ、昨年度の活動における問題点と今後の対応について話し合いました。後半は、全体会として、教養教育推進部門の平成 28 年度の活動報告、および各部会からの報告、そしてそれらの現状を踏まえたうえで、全学共通教育をより充実させていく方策について意見交換を行いました。

平成 28 年度より「異分野からの学び」を履修方針として掲げ、学生は履修科目に偏りがなくように求められています。これまであまり関心のなかった分野を履修する学生もいる中で、より魅力ある講義を適切に提供すべく、開講科目や開講時間・時期について議論をしました。また担当者が一部の教員に固定化したり、担当教員の都合などで現在開講している科目が開講できなかったりという事態が起こらないよう、部会内の連携を高め、より多くの教員の参画を求めていくことを確認しました。



部会別懇談の様子



全体会での教養教育推進部門の活動報告と各部会の発表

「サテライトキャンパス早朝クラス」は、JR 岐阜駅、名鉄岐阜駅からの岐阜大学行きバス乗車の混雑を回避するため、平成 28 年度から始まりました。今年度前学期も月曜から水曜まで「岐阜大学の教育研究と運営」、「美術論（美術史）」、「ひろがる学び、つながる学び」、「科学論（科学論入門：近代的自然観と自然科学）」の 4 科目を、朝 8 時から 9 時 30 分まで開講しました。初年度の受講者数は、合計 105 名でしたが、今年度は 202 名と、ほぼ倍に増え、通学時の混雑を緩和することに貢献しました。早朝クラスの科目の中には、ネットワーク大学コンソーシアム岐阜加盟校の学生や、社会人にも公開されている授業もあります。従って、本学の学生だけでなく、岐阜薬科大学など近隣の大学や地域社会の方々と一緒に授業を受けられることも、サテライトキャンパスの大きな魅力のひとつとなっています。



「美術論（美術史）」の授業風景

ただ、今後の課題は、後学期の受講者の確保です。前年度は、19 名と伸び悩んでいましたので、後学期の「サテライトキャンパス早朝クラス」では、さらに魅力的な授業を開講し、精力的に広報活動を行って、活用を呼びかけていくつもりです。

ただ、今後の課題は、後学期の受講者の確保です。前年度は、19 名と伸び悩んでいましたので、後学期の「サテライトキャンパス早朝クラス」では、さらに魅力的な授業を開講し、精力的に広報活動を行って、活用を呼びかけていくつもりです。

「日本語力・レポートの書き方を身につけさせる方法」

2017 年 3 月 23 日（水）13:00～14:30 コモンズ教室

教養教育推進部門は、平成 28 年度第 1 回 FD 研究会を学修支援部門と共催で、年度末に開催しました。テーマは「日本語力・レポートの書き方を身につけさせる方法」で、工学部の三輪洋平先生が「工学部での取り組み～学生実験を通して」、応用生物科学部の杉山誠先生が「応用生物科学部初年次セミナーでの取り組み」と題して、それぞれの学部で学生にいかにして日本語力、レポートの書き方を身につけさせるのか、その具体的な授業の内容、指導方法について紹介していただくとともに、教育学部国語教育講座の山田敏弘先生から発表に対するコメントをいただきました。工学部でも応用生物科学部でも、TA、SA を有効に使い、レポートを添削して返却するなど、手間ひまをかけた非常にきめ細かな指導をされていることが分かりました。

「授業がうまく行かない時どうすればいいかを考える

—わたしはこうして改善しました 実践報告その 1—

2017 年 6 月 28 日（水）13:30～15:30 コモンズ教室

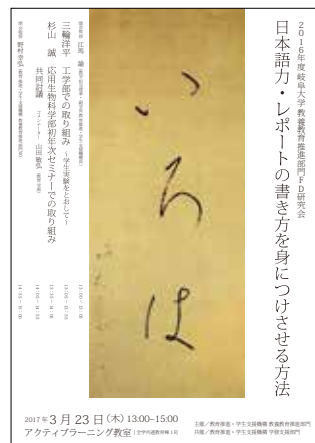
平成 29 年度も、やはり学修支援部門と共催で第 1 回目の FD 研究会を開きました。今回のテーマは、教育学部の中村琢先生と工学部の永井学志先生がそれぞれ全学共通教育で担当されている「科学的なものの考え方」と「日曜大工からはじめる力学」の授業実践について報告していただきました。中村先生が自分の授業を詳細に分析した自己評価の結果、そして永井先生のユーモアとアイデアたっぷりの授業内容から、両先生の教育に対する並々ならぬ情熱と、学問、学生に対する愛情が感じられました。



講師の中村、永井両先生



「日曜大工からはじめる力学」で使う手作り教材の展示



発表後の共同討議の様子



「異分野からの学び」履修方法について

平成 28 年度から、視野を広げるために「異分野からの学びを」重視するという基本方針に従い、履修選択の幅を「科目」から「分野」に変更しました。しかしながら、その正しい履修方法が理解されず、卒業要件に必要な最低修得単位数を満たしていない学生が一部いるようです。あらためてその履修制限の変更内容について、人文科学科目を例にとりご説明します。これまで人文科学科目の中の授業を自由に履修し卒業要件の単位数とすることができました。平成 28 年度から水色のマーカーのような同じ哲学分野の授業科目を受講することは可能ですが、卒業要件としては 2 単位分しかカウントされません。オレンジ色のマーカーのように、異なる「哲学分野」「歴史学分野」をまたいだ授業科目を受講して初めて卒業要件がカウント可能な 4 単位として認められます。

人文科学科目

分野	科目名	授業名	
哲学分野	哲学入門 Introduction to Philosophy	日本の哲学思想 西洋哲学入門	
	人間・死生学 Human Thanatology	現代人間論	
	近現代思想 Modern and Contemporary Ideology	近現代の平等	×
		日本の近代思想	×
	科学論 Scientific Theory	科学論入門：近代的自然観と自然科学	
		生命と癒しの科学論	
	東洋・日本思想 Oriental, Japanese Ideology	中国の古典思想	
		インド思想の特質	
	倫理学 Ethics	倫理学とは何か	×
		生命倫理学	×
宗教学 Religion	比較宗教学概論		
	日本の文化と宗教		

歴史学分野	歴史学入門 Introduction to History	歴史学とは何か 歴史から学ぶ
	西洋・中東史 Western and Middle East History	西欧諸国形成史
		西洋史（イギリス近代史）
	中国・朝鮮半島史 Chinese and Korean Peninsula History	中国史
		朝鮮・韓国の文化と日本との交流史
	世界近現代史 Modern and Contemporary World History	アメリカ概論
		近・現代史への接近
		現代国際関係史
	日本史 Japanese History	日本の歴史
		古代中世の政治・社会と文化
	日本近世史 Japanese Early Modern History	近世都市史
		近世文化史
	日本近・現代史 Japanese Modern and Contemporary History	ニュースで見る現代社会
		近現代日本における女性
	民俗学・人類学 Folklore and Anthropology	人類学入門

授業で活用「教養ブックレット」！

毎年、教養教育推進部門が出版している『教養ブックレット』。本学の授業科目にはこの冊子を活用しているものがあります。ブックレットが活用されたのは、全学共通教育科目の一つ、「ひろがる学び、つながる学び」（授業担当：廣内大輔准教授）です。

この日は、ブックレット Vol.10「教養を身につけよう！」に収められた 37 のエピソードを教材として、本学教員の教養教育観や全学共通教育の意義についてのディスカッションが活発に展開されました。

受講生は皆この日のためにブックレットを相当読み込んできており、それぞれのブックレットには書き込みや付箋がビッシリ。各学生が最も共感できたトピックや友達に勧めたい話を次々と上げながら意見交換していく形式で進められました。

全学共通教育の魅力はなかなか理解してもらえないことも多いのですが、このブックレットを使って議論をしたことで、少しでも意識を向けてもらうことに繋がったかと思えます。



この一冊に教養教育の魅力がギッシリ！

教養教育 NEWS スタッフ

教養教育推進部門（2017年4月現在）
 部門長 野村幸弘 専門分野 美術史学
 副部門長 額縁 守 専門分野 化学
 副部門長 橋本永貞子 専門分野 言語学
 学修支援部門（2017年4月現在）
 副部門長 廣内大輔 専門分野 高等教育論



岐阜大学 教育推進・学生支援機構 教養教育推進部門

〒501-1193 岐阜市柳戸 1-1

TEL.058-293-2169

email gjea01008@jim.gifu-u.ac.jp